

危険予測学習の進め方(例) - 無灯火運転の危険 -

学習内容	指導上の留意事項等
①交通状況の読み取り (個人～発表)	<p>この絵はどんな場面だと思いますか。絵を見て考えられることを発表してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らが自転車運転者の立場となって、状況を詳しく把握させる。 ・発表させる。 (道路の状況、運転者の状況、自転車の状況など) ・生徒に次のような状況を読み取らせる。 夜間、無灯火でスピードを出して自転車に乗っている。 前方には左から交差点に近づいてきている自動車とヘッドライトの光が見え、その光がカーブミラーにも映っている。 自動車は右折しようとしている。
②危険の予測・重大な危険の絞り込み (発表～話し合い)	<p>このまま進んだら、どのようなことが起きると思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この場面で起こり得る事故やありそうな危険をできるだけ多く予測させ、板書する。その理由も述べさせる。 ・どのような意見でも肯定的に受容する。 ・優先道路を走っている自転車運転者の心理、自動車運転者の無灯火自転車への認知の有無についてしっかり考えさせたい。 <hr/> <p>「ありそうな危険・起こりそうな事故」のなかで、重大(大変)だと思う危険・事故を選びましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを用いて、◎や○を付けさせるのもよい。
③回避方法の考察	<p>そのような事故にあわないためにはどうしたらいいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絞り込まれた危険・事故に対し、どのようにしたら危険が回避できるか、話し合わせる。 ・運転者が陥りやすい心理なども考え、ふさわしい行動を話し合わせる。 ・選んだ回避方法の理由を明らかにさせる。
④まとめ	<p>これから気を付けることを自分の言葉で短くまとめましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ワンポイント行動目標」として一言でまとめさせる。 例：「夜間は必ずライトを点灯する」「交差点の手前では減速する」等

※ 一斉学習だけでなく、導入後、4、5人のグループに分けて、①②③の活動を行い、最後に、グループごとにまとめを発表させる方法もよい。

※ グループで進める場合は、簡単なワークシートを作成し記入させるとよい。

安全上の望ましい行動	<p>① ライトを付けることは、路面を照らす役割と同時に、自らの存在を他の通行車両や歩行者に知らせるという大きな意味がある。 そのことが自らの命を守ることにつながる。</p> <p>② 薄暮時や夜間などに自転車で走行するには、安全のために必ずライトを点灯し、道路上の障害物や異常を確認する必要がある。</p> <p>③ 無灯火の場合、自転車から車両はよく見えていても、無灯火で走る自転車は車両からほとんど見えず認識されない。また、点灯している場合でも、対向車がある場合はそのライトがまぶしくて、運転者は自転車や歩行者を見落とす場合がある。</p> <p>④ 自転車は、車両の一種なので、夜間は必ずライトを付けるようにする。(教則第3章第2節2(13)参照)</p> <p>⑤ 特に、夜間では、交差点の手前で減速し、車両との衝突を避ける。(教則第3章第2節3(2)参照)</p>
------------	--